



7.10 参院選 政党に 聞く

▶ 3

生活の課題訴えが浸透

立民党県連
喜友名智子代表

「争点について。『辺野古だけが前面に出るの選挙ではないが、新基地反対は県民の根強い民意だ。政府は防衛費について簡単に倍増と言いつつ、福祉や年金、教育費にはお金がないと言う。物価高」

「自民の公認候補は、普天間飛行場の危険性除去の現実的な最も早い方策として辺野古を容認している。『元官僚という肩書のある候補なので、国策に逆らう政治ができる方ではないと思う。辺野古容認と言いついたのもその象徴だと思っっている」

「伊波氏を推す政党や団体は幅広く、それを生かすために全体が一番動きやすい組織体制が構築されている。立憲の支持者には中道保守といわれるところから、従来の革新といわれるような考えに近い方たちまで、かなり幅広い。『支持』という枠組みの方が、政党としてより柔軟に独自色や強みを出しながら伊波氏の

応援をセットで展開できると捉えており、それが強みでもある」

「推薦ではないからといって、動きが従来よりも劣るといわけではない。2019年参院選で無所属で当選した高良鉄美氏の選挙でも、今回と同じように伊波氏を推す各政党は支持という形で動いた」